

ブドウの東京オリジナル品種の開発

【背景と目的】

近年、夏季の高温によるブドウの着色不良などの栽培上の課題が増えている。そこで着色不良の発生が少ないなど、環境や消費需要に適応したブドウ新品種の開発に取り組む。

【研究概要】

果樹の育種は、結実までに時間を要することや植物体あたりの体積が大きいことから、選抜までに時間と労力が掛かる。本課題では、交雑育種による有望系統の選抜を行うとともに、品種開発に向けた東京都農林総合研究センターにおける効率的な選抜手法の確立を行う。

（１）有望系統の選抜

- ① 系統の作出：交雑育種による健全種子を獲得する。
- ② 系統の選抜
 - ・一次選抜：生育調査（健全な発芽，伸長，結実の有無）
 - ・二次選抜：果実特性調査（糖度・酸度・香り・果皮色・果皮の可食性など）〔選抜基準：既存品種と同程度以上の果実形質〕

（２）効率的な選抜手法の確立

- ① 育種における栽培管理方法の確立
 - ・播種・挿し木・接ぎ木等の効率的な繁殖方法（時期・温湿度など）
 - ・栽培環境の違いが各品種の生育特性に及ぼす影響（開花期，花粉量など）
 - ・有望な交配組み合わせの検討（種子数，発芽率，果実形質など）